

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000260		
法人名	社会福祉法人 正福会		
事業所名	グループホーム くつろぎ・友井荘		
所在地	大阪府東大阪市友井四丁目8番5号		
自己評価作成日	令和元年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和元年 12月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2795000260-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2795000260-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪市東成区中道3-2-34 JAM大阪2F
訪問調査日	令和元年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を念頭に、ご本人の意向を尊重し、安心で安全に自分らしい生活を日々過ごして頂けるよう取り組んでいます。施設での生活のなかで、季節を感じて頂けるように、レクリエーションなどの工夫、施設周辺の散歩、季節の花がある中庭作りの取り組みを行っています。また、施設内行事や地域行事に参加をされている様子を家族の方々に報告させて頂き、安心して頂けるように努めています。入居者の一人ひとりの健康管理にも常に留意し、医師との連携を図り、安心できる生活を過ごして頂けるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東大阪市にある社会福祉法人が運営する特別養護老人ホームに併設された、ワンフロア9名の利用者が生活しているグループホームです。近くには、自然に恵まれた大きな銀杏のある神社や公園等があり散歩や買い物等にも気楽に出かけています。玄関を入ると法人・グループホームの理念がそれぞれ掲げてあります。食事は施設内の厨房にて調理していますが、施設全体でのイベント食に参加して目の前で調理した食事をたのしんでいます。郷土料理のメニューの日にあり食べる事を大切にしております。職員は、利用者の意思を尊重し、笑顔で話しかけています。定期的な医師の訪問、訪問看護、歯科の指導等連携を図り健康管理に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果(くつろぎ・友井荘)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有・実践するように努めている。また、グループホーム独自の理念も掲げ、実践に努めている。法人理念は、定例会議での説明や研修の開催案内などに記載し、管理者・職員が事業所理念を意識づけるように玄関に掲示している。	法人の理念・グループホームの理念がそれぞれ玄関に掲げてあります。入社時の新人研修や毎月のミーティングなどを通して実践につなげられるように努めています。管理者は、日々の実務の中で課題を見つけ職員と共に工夫しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園へのお花見や夏祭りへの参加、近くのスーパーへの買い物、近隣の散歩また、施設内特養の入居者の方との交流などを通じて、地域と交流を図るようにしている。	地域の自治会に入会しています。夏祭りは恒例行事となり毎年参加しています。併設の交流スペースは地域の方が詩吟等の練習場所としても使用しています。利用者は、神社や公園など気軽に散歩に出かけ地域の人達と挨拶をかわしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法などについての情報発信は、地域運営推進会議等で必要に少しでも助言となるように話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月、第3金曜日を運営推進会議の日と定め、サービス提供の状況、行事等の報告とヒヤリハット・事故報告なども開示報告している。また、サービス向上に活かすことができるよう率直な意見をもらうようにしている。	2カ月毎に運営会議の日を定めて、会議を開催しています。サービスの提供状況・行事・ヒヤリハット・事故報告書等丁寧に報告しています。出席者の方々と話し合いをするように努めています。そこでの意見をサービスの向上に活かす事ができるように検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険での疑問や解らないことが生じた場合、東大阪市福祉部施設課へ問合せを行い担当部署との連絡を密にし、相談や指導を受け協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。また、変更届や報告書などの提出物は持参し担当者との顔の見える関係性をもつようにしている。	東大阪市の担当課には、その都度問い合わせを行い相談するように努めています。介護保険の提出書類などは出来るだけ持参して顔の見える関係を大切にしています。市主催の研修会・報告会に積極的に参加して協力関係を築くよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針の周知徹底を図れように積極的に外部研修に参加している。また、研修内容を施設で勉強会を実施し現状の振り返りを常時行い職員の共有認識を図っている。玄関の出入口扉開錠については日中の可能な時間帯につき開錠している。	身体拘束の廃止に関する周知徹底をはかっています。外部研修に参加し内部研修にて報告会を行い職員共有に努めています。ケアの言葉がけについては、スピーチロックを意識してはたらきかけています。玄関入り口は施錠されていますが、日中の可能な時間帯について開錠する等の取り組みをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に対する理解を深めるための外部研修に参加し施設で内部研修を実施している。虐待とみなされる行為について具体的に学び防止に努めている。特にスピーチロック廃止に向けての取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について理解し、入居者に具体的に必要が生じた際は、家族や関係者との話し合いをし取り組めるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の前に重要事項説明書の内容について説明を行う時間を設けその後、契約書内容の説明を行い、契約締結をして頂くようにしている。運営規定やその他規程変更の必要がある場合には家族や入居者に説明を行い不安や疑問が生じないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が意見、要望を申し出やすいように普段から管理者や職員から話しかけられるようにしている。また、意見箱も設置し定期的に確認している。意見があった場合は、定例の会議にて報告し、運営に反映できるように取り組んでいる。	普段から面会に来られた家族に職員から声掛けして近況状況を知らせ、話しを伺うようにしています。メール等で連絡することも可能です。行事にも出来るだけ参加できるように案内状を早めに送付しています。行事は、家族等の意見を聞く機会として取り組んでいます。施設内に意見箱も設置しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議で管理者・介護職員で意見交換を行っている。また、職員には日頃から業務を通じて問いかけたり、聞き出したリしコミュニケーションを図るように心がけている。	職員は、定例のグループホームミーティングで管理者と業務の改善や課題について意見交換をしています。管理者は、日ごろの業務の中で職員とコミュニケーションを図るように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務態度や状況の把握などに努め、各職員が向上心ややりがいをもちながら働けるように環境整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や実力を把握し、法人内研修や法人外研修など経験の応じた研修機会の提供に努めている。資格未取得の職員に対しては初任者研修の受講料補助も行っている。また、スキルアップのための介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得にも取り組むように職員に働きかけを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会の定例会へは施設長及び管理者が参加するようにしているが、東大阪市内の事業者との定期的な交流会の場の確保は調整中。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、入居者自身が困っていること、不安に思っていることはその都度確認・傾聴し、職員間で情報を共有して安心・安全な生活を送って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族が困っている事・不安に思っている事・要望等を確認・傾聴して、職員間で情報を共有している。意見箱を設置し、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で、要望や必要とされているサービスについて検討し、個々に応じてマッサージや訪問診察、訪問歯科、緊急時の受診など他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見・要望などを傾聴し不安や困っている事など職員で検討・話し合い、解決策を実行する事で入居者との信頼関係を築き、暮らしを共にする同士の関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に相談こと・心配な事があればいつでも話して頂けるような環境作りに努め、入居者と家族の絆を大切にしながら、共に入居者を支えていく事が出来る信頼関係を築く事が出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設近くに住んでいた入居者は家族から施設にいることを聞き実際によく知人の方が会いに来られるが、遠方からの入居者は面会で来荘される方以外は馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援は出来ない。	入居者と、のど自慢等のテレビ画面を見て故郷の話をしたり歌を一緒に歌う事で人や場所の思い出、馴染みの支援に努めています。季節の花を見たり近隣の柿やキンカンが実をつけているのを見て安らぎの支援を共有しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、アクシデントやそれに準じる行為が起きないように、共同生活の場における席の配置や職員の配置に配慮しながら、一人ひとり孤立せず入居者同士が会話ができるように支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了した方の情報はいつでも状況に応じて開示できるように保管し、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー・相談や支援ができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話をしながら表情や言葉などから本人の思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。	入居時に初回アセスメントで情報を得るようにしています。毎日挨拶を交わし「耳元でゆっくり話す」ことで本人の意向の把握に努めています。面会時に家族と入居者の会話の橋渡しをしています。情報はユニット会議で伝え職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族に生活状況を聞き、入居の際には馴染みのある家具や持ち物を持ち込んで頂き、安心できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の今の現状を把握し、心身の状態に応じたその人らしい生活が送れるように努めている。また、一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向・思いを踏まえ、現状のニーズに応じたケアを計画作成担当者と職員で話し合って介護計画を作成している。状況によっては協力主治医にアドバイスを受けるようにしている。	現状の把握に努め計画担当者・職員、家族と話し合い、介護計画を作成しています。日々の表情にも留意しています。状況によっては、体調面でのアドバイスを協力主治医に受けるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態の変化、気づきを朝の申し送りやケース記録に残している。パソコン上の申し送り機能も活用し、さらに職員間の情報共有の一環として申し送りノートを活用し実践や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じた対応(散歩・家族との外出など)個々の状態に適した対応(食事形態・排泄用品など)を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りへの参加、定期的なボランティア団体の受け入れ、地元の中学校とのイベント交流など、入居者の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。多くの入居者がホームの協力医を主治医としており、月2回の訪問診療体制や24時間の医療体制を確保している。往診結果は面会時に家族に報告を行っている。緊急性がある場合は家族にすぐに電話連絡を行っている。職員間では訪問診察記録で情報共有を図っている。	内科は月2回、精神科は月1回、かかりつけ医として協力医療機関の訪問診療を実施し、24時間の医療体制を整えています。入居以前のかかりつけ医の継続受診もできます。このほか週1日、訪問歯科診療も行っています。健康状態や受診結果は家族等に電話や便りで知らせ、職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に些細な事でも頻繁に情報交換を行い、普段と違う何気ない様子を捉え、常時電話連絡を中心に相談・助言を受けている。情報共有を図ることで、早期発見・早期治療に繋がられる連携体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはかかりつけ医より情報提供を行い、ホームから日常生活についての情報を伝えている。また、退院時は本人や家族の意向を聞きながら、早期退院に向けて病院関係者(医療連携室など)と情報交換し安心できる生活環境に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化及び看取りについてその時点での意向を確認している。状態の低下や重度化した場合には、かかりつけ医より見解を話して頂き、医療と介護の連携での支援方針を説明し、本人や家族の希望に添えるように努めている。意向を最優先にするために、安心・安全・安楽な環境整備や精神的ケアについての研修を実施するなど職員の資質向上を図っている。去年10月にターミナルケアについて、外部講師を迎え勉強会を実施した。	可能な限り終末期介護に対応し、看取りの実績があります。重度化や終末期のホームの方針について明記し、入居時に本人や家族等に説明して意向を確認しています。希望される場合も状態に応じてその都度、家族や医療関係者と話し合い、慎重に進めています。事業所では特養と合同でユニット会議時に終末期のミニ研修も行っています。	入居の長期化に伴い「最後まで住み慣れたホームで」と希望する本人や家族もおられます。グループホームならではの、家庭的な環境と個別ケアを生かした終末期ケアの研修やマニュアルの作成に取り組まれてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員に周知を図っている。また、研修会の参加や施設内の勉強会を通じて職員の知識向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いで避難誘導訓練及び職員による消化設備や機器の説明など定期的に行うようにしている。飲料水や食料などの備蓄も行い、運営推進会議を通じて地域の方への災害時の協力依頼をお願いする体制も構築しつつある。最近、特に災害が多く、マニュアルの再整備も行っている。	利用者全員と職員が参加し、消防署の立ち会いによる避難訓練を年2回実施しています。災害マニュアルは定期的に更新し、火災のみならず地震や台風・水害など幅広い災害に備えています。水や食品、カセットコンロ等の備蓄も万全です。 今夏ホーム近くの高木に落雷があり、夕方から数時間停電しましたが、日頃の訓練が功を奏し混乱なく収束しました。ホームではこの経験を活かし、避難場所や発電機の見直しと地域の関係強化につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の背景にある個性を理解し、一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。特に言葉遣いについて馴れ馴れしい言葉と親しみのある言葉の違いを理解し普段から職員同士で声を掛け合い意識の向上に努めている。	特養と合同で「教育接遇環境美化委員会」を作り、尊厳やプライバシーの確保について話し合っています。また、管理者は日頃から職員に言葉遣いには注意を払うよう指導し、職員間でも互いにチェックしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者自身が思いや希望を表したり出来る様に信頼関係を築き、職員間で情報を共有して、ケアの方法やレクリエーションなどについて自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・排泄・余暇・就寝・起床など総じての生活支援に関して入居者一人ひとりの体調・状態を優先している。散歩などの外気浴なども取り入れ1日1日を安心・安全・快適に暮らして頂き、我が家の様な安らぎと、くつろぎのある生活を送って頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を梳かされる方は自身で行い、介助が必要な方は職員によりお手伝いさせて頂く。また、お化粧をされる方は見守りの中、自身でファンデーションや口紅をつけて頂いている。衣服に関しては入居者自身で選んで頂き、介助が必要な方はその方に似合う衣服を選び着て頂き、その人らしいおしゃれが楽しめるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご当地メニューを取り入れたり、季節の行事の際は特別メニューを取り入れている。食事は併設ホームの厨房から届けられるため、入居者と職員と一緒に作ることはないがバランスの良い食事を提供している。個々の嗜好調査も行っている。2ヶ月に1度、入居者の目の前で厨房職員が焼いたりして作っている所を見て楽しまれたり参加されたりしている。また、メニュー掲示も行っている。	併設の特養の厨房から嚙下力や状態に合わせた栄養バランスのいい食事が運ばれます。選択メニューや嗜好調査を実施し、食べる楽しみを支援しています。イベント食では行事食のほか郷土料理を取り入れた「ふるさと御膳」も人気です。天ぷらやお好み焼きなど、利用者の目の前で調理し出来立てを味わう食事会を隔月で開いています。利用者は配膳や洗い物を手伝い、クリスマス会には職員と一緒にケーキやクッキー作りを楽しんでいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の入居者の健康状態に注意しながら、食事摂取量を把握し、水分量も時間を決めて1日を通じて確保できるように支援している。また、体調不良の方が出た場合に、いつでも水分強化が出来るようにスポーツドリンクの粉末を常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをご自身でできる方はして頂き、介助が必要な方は職員が全介助・一部介助させて頂く。また、個々に合った歯ブラシ・口腔スポンジ・口腔ガーゼなどを使用する事で、口の中の汚れや臭いが生じないように毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握し介助の必要な方は排泄チェック表を基に定期的に時間を決めて声かけや誘導を行っている。誘導時間など変更や検討が必要な入居者には月1回の定例会議などで話し合いにて決定し、清潔で安心・安全な自立にむけた支援に努めている。	排泄チェックリストを付けて効果的な誘導を行っています。声かけの仕方です排泄の自立につながった事例や、医療と連携し尿バルーンから再び自立排泄に戻った事例等があります清潔で安心、安全な。自立に向けた支援は、利用者のみならず職員の励みになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で及ぼす影響が大きいことを理解し個々の排便パターンを把握する。便秘の際は水分を通常よりも多く摂って頂き、腸の働きをよくするために腹部マッサージ・ホットパックを行っている。また、歩行可能な方には、歩行運動をして頂き個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けを行うが入浴を拒否された場合、時間をずらしタイミングに合わせて入浴して頂く。それでも拒否が強い場合は日にちをずらしている。湯船に入れない方は足浴をしながらシャワーを浴びて頂く。週2回は入浴をして頂くが希望によっては週3回入浴されており個々にそった支援を行っている。	利用者はシャワー浴を含め週2~3回入浴しています。同性介助に対応し、状態に応じて2人介助を実施しています。入浴を楽しむ工夫として、季節の菖蒲湯や柚子湯のほか入浴剤も使用し、シャワー浴でも入浴剤を入れた桶で足湯をしています。夏場には露天風呂気分を味わってもらおうと浴槽の上の窓を開け、空を眺めての入浴や、介助しながら一緒に唄を歌う職員もいます。入浴を好まない利用者の対応策について、事業所だけでなくグループホーム会議などで広く情報交換しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や気温に応じてエアコン(冷房・暖房)、寝具(掛け布団、毛布、敷きシーツ)にて体温・体感調整を行っている。また、入居者が休息・就寝されたい時は居室に戻りベッドに横になれることで、休息したり安心して気持ちよく寝られるように環境を整え支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方されている薬の効能・効果、副作用について服薬情報リストファイルを作成し、いつ時でも確認出来る様にユニット内に常備し、理解するように努めている。服薬時には職員間で入居者の氏名日時を読み上げダブルチェックを行ない誤薬のないように支援している。症状の変化があれば24時間体制で訪問医師にオンコールを行い指示を受けることが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のその日の体調に合わせて、季節ごとのレクリエーション・散歩・折り紙など定期的に行い一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換などの支援に努めている。また、ホームで過ごされている様子など写真を撮り掲示を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調や希望を考慮しながら、近隣へ散歩に行ったり、季節ごとに花見や地域の祭りに参加したりしている。本人や家族の希望で外出される方もいる。外出が困難な入居者には、ホームの中庭や玄関先に出て外気浴をする機会をつくり、気分転換が出来る様に支援している。	金岡公園での花見のほか地域の祭りに皆で参加しています。家族と一緒に美容室や食事に出かける利用者もいます。春や秋の天気のいい日には、すぐ横の神社やホームの周辺を一巡りしたり、中庭で外気浴や1階の干し場に洗濯物を干しに行ったりしています。「朝の太陽を浴びてほしい」という管理者の思いが、日常的なミニ外出につながっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を支払うという基本行為の大切さについて職員は理解している。買い物などの外出の際は、ホームでお金を立替所持して頂くことができるように支援している。現状、ほとんどの入居者が自身でお金を管理、所持されているということはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に入居者自らが電話を希望されれば、電話をして頂くように援助している。また、手紙を書かれた際には、代わりに郵送したり、面会時に家族に渡せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、清潔感が保てるように努め、入居者が快適に過ごすことができるようにしている。フロアや居室のテレビの音量にも注意し、不快感を招かないように調整している。中庭からの遮光を活かせるような家具や機の配置などにも配慮している。	随所にラグジュアリーな造花や絵画、行事のスナップ写真を飾っています。ほのかな芳香が立ち込めるエントランスを通過してリビング兼食堂に入ると、ベランダ越しに花壇のある中庭が広がり、利用者は季節を感じながら生活しています。リビングに1～数名掛けの小テーブルを配置し、それぞれの場所で食事したりくつろいでいたりしています。ソファーに居場所を見つける利用者もいます。共用空間は掃除が行き届き、日当たりや温度等環境整備にも努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は居室に戻られる方が多い。共用空間では気のあった入居者同士が過ごすことができるように、机の配置を状況によって変えたり、机を囲んで話しがしやすいように工夫し、支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から家族と相談しながら、新しい物で揃えるのではなく、本人が使い慣れた物や大切にされていた物を持ち込んで頂くようにしている。また、家具やベッドの配置・動線などをできるだけ現状と変わらないようにしている。入居者が快適かつ安心・安全に過ごして頂けるような工夫に努めている。	居室の入口に表札を掛けています。入居時には「新品を購入せず使っているものを」と案内していますが、居室にはベッドのほかクローゼットやチェストを備えているため家具を持ち込む方は少数です。利用者や家族は人形やぬいぐるみ、造花、写真やホームで描いた塗り絵を貼るなどして、その人らしい空間をつくっています。毛糸を置いて「あやとり」を楽しむ利用者もみられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の居室側には手すりがあり、安心して歩行訓練もできるように設置している。浴槽には別途手すりを取り付け安全性の確保を行っている。また、居室入口に表札をつけたり、トイレの絵表示をつけて自身が認識し、自立した生活が送れるように工夫している。		